

# チェルノブイリ31年

～原発事故被災者は  
心をつなぐ～

## フクシマ6年



開園直前に原発事故が起き、一度も使われることのなかった遊園地。原発労働者の街プリピャチにて (photo by すぎた和人)。

### 2018年2月11日(日)

[ゲスト紹介]

12時開場／12時30分開演

会場：小高生涯学習センター「浮舟文化会館」

大ホール (14時20分より2階和室にて交流会)

入場無料 (チェルノブイリへのカンパを歓迎致します)

(2階フロアにてウクライナ～福島 絵画・写真展を開催)

プログラム (予定)

12時00分 開場 (大ホール)

ウクライナ～福島 絵画写真展 (2階フロア)

12時30分 第一部開演 (大ホール)

ウクライナの紹介

映像詩「ウクライナ懐郷」(すぎた和人)

ボウクンさんのお話 (30分)

13時10分 休憩 (10分)

20分 第二部開演 (大ホール)

ドンチェヴァさんのお話 (30分)

Q&A (30分)

14時10分 休憩・会場移動 (10分)

20分 交流会 (2階和室120分)

16時20分 終了



●ボウクンさん／1955年生まれ。チェルノブイリ原発経理課に在職中、原発事故が起きる。事故後、夫、4歳の娘と共に原発労働者の町プリピャチ市から約120km離れたジトミル市(ジトミル州都)に移住。長年、日本人と文通を続けている。現在、年金生活者。

●ドンチェヴァさん／1968年生まれ。ジトミル州のジャーナリストなどからなる慈善基金団体「チェルノブイリの人質たち」(旧名「放射能汚染地から人々を移住させる基金」)理事・会計係。



主催・お問い合わせ：放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町2-67 TEL:0244-24-5166

E-Mail: todokedori@sokutei-minamisoma.org

共催：おだかぶらっとほーむ+NPO 法人チェルノブイリ救援・中部

後援：南相馬市・NPO法人南相馬こどものつばさ・小高商工会女性部有志



# チェルノブイリ31年 フクシマ6年 ～原発事故被災者は心をつなぐ～

## 31年先の福島を考えるために話を聴こう

日本がまだ昭和だった1986年4月26日、旧ソ連の国策で進められたチェルノブイリ原発(現ウクライナ)で世界最悪の原発事故が起き、多くの人々が強制移住を余儀なくされました。

それから25年後、2011年3月11日の東日本大震災により福島でも原発事故が起き、やはり移住の問題が6年後の今も住民を悩ませています。

チェルノブイリ原発事故から31年、人々の生活はどう変わり、何が変わらずにいるのか？ 福島の31年先を考えるためにウクライナより2人のゲストを招き、お話を聴きます。



ゆったりと牛が歩く強制移住が中断された汚染地域ナロジチの裏通り(photo by 小林友子)

### 南相馬市小高区の場合

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災により甚大な被害を受け、続く東京電力福島第一原発事故のため20km圏内にあった南相馬市小高区は同年4月22日に警戒区域として立ち入りが禁止され、自宅暮らしができなくなりました(南相馬市は30km圏内の原町区が緊急時避難準備区域に)。翌'13年4月16日、小高区は警戒区域から避難指示解除準備区域となり、日中のみ立ち入れるようになりました。'15年になってようやく自宅での宿泊が届け出制で許されるようになり、'16年7月12日の避難指示解除と同じ日、JR常磐線原ノ町駅～小高駅間が5年ぶりに開通しました。

かつて1万2千人だった人口のうち、'17年11月30日現在、居住者数は2345名ほど。2017年4月より小・中学・高校の学校が再開しましたが、山間部や農地除染の遅れなど課題は山積しています。

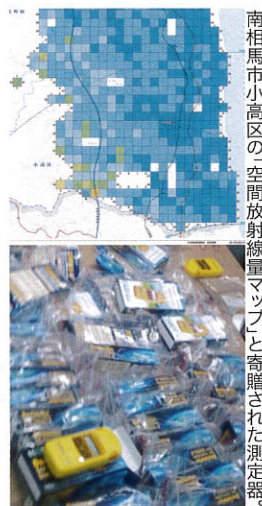
## ●ウクライナと日本の交流 27年

～NPO法人チェルノブイリ救援・中部と放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)の紹介～

- 1990年 4月 チェルノブイリ救援・中部発足。医薬品・医療機器・粉ミルク・クリスマスカードを贈る。
- 1996年 4月 第1回スタディツアーを実施(現在までに10回)。移住者の村支援・事故処理作業員の支援を開始。チェルノブイリ奨学基金を設立。
- 2000年 6月 NPO チェルノブイリ救援・中部となる。
- 2003年 10月 ノーベル文学賞受賞者アレクシエーヴィチさんの講演会を開催。
- 2006年 8月 ナロジチ地区で「菜の花プロジェクト」を開始。
- 2011年 3月11日 東日本大震災発生。
- 2011年 4月 ウクライナで「日本を救おう」キャンペーンが始まる。
- 9月 放射能測定器(TERA-P 125台)が届く。
- 7月 南相馬市内の「空間放射線量マップ」を作成、以降、半年ごとに14回行う。
- 12月 土壌・水・食品などを測定する放射能測定器を寄贈(現在3台稼働)。
- 2012年 6月 「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」が発足。
- 2013年 9月 ウクライナ版「菜の花プロジェクト(報告書)」が完成、福島の復興・再生に活用。
- 2014年12月 26年間続けていた日本国内とウクライナからのクリスマスカードを南相馬市内の子ども達に配布。以降、毎年末に4回実施。
- 2016年 4月 「全国菜の花サミット(南相馬市ゆめはっと)」を開催。

### 《ウクライナと日本の27年》

東日本大震災のニュースを知ったウクライナの人々は、いち早く「今度は私たちが日本の友人を支援する番だ!」と募金活動を始め、私たちが最も必要としていた「放射能測定器」を何と125台も寄贈してくれました。1台あたりの価格は約130米ドル(1万5千円)でしたが、当時の現地の平均月収は2万円ほどですから1台あたり1ヶ月分の収入に近い高額な支援をしてくれたのです。その測定器は今も、「空間放射線量マップ」作りに欠かせないものになっています。



南相馬市小高区の「空間放射線量マップ」と寄贈された測定器

## 放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥) ～ 未来のために 子どものために 測ってみませんか？



震災から約1年後の2012年6月1日、南相馬市原町区錦町に「放射能測定センター・南相馬(愛称:とどけ鳥)」と小高支所がオープンして今年で5年半が経ちました。家庭菜園で獲れた野菜や果物、山菜やキノコ、井戸水や土など…、市民のご依頼に応じて、さまざまな検体の測定を行っています。

### 放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町2-67  
TEL: 0244-24-5166  
測定日: 火・水・木・金 10:00～16:00  
E-Mail: todokedori@sokutei-minamisoma.org